

# 労働者派遣

## 四割超が正社員での就労を希望—厚労省の実態調査

派遣労働者の約四割が今後、「正社員として働きたい」と考えている一方で、「今のままの働き方がよい」としている人も同じ程度いる——。厚生労働省が実施した「労働者の派遣の実態に関するアンケート調査」結果でこんな実態が明らかになった。同時に行ったインターネット調査では、正社員として働きたいと答えた人が約六割を占め、今のままの働き方を望む人は二割弱に落ち込むなど、調査対象・手法による違いも浮き彫りになっている。厚労省では現在、製造業派遣や登録型派遣の是非を含む労働者派遣制度のあり方について、有識者会議を設け検討しており、今回の調査結果を踏まえ、今夏をめどに報告書をまとめる考えだ。

調査は厚労省が労働者派遣の実態を把握する目的で昨年一二月に実施した調査対象は派遣元事業所（一事業所）、従業員一〇人以上の派遣先事業所（二事業所）、派遣労働者（二万人）。調査票は派遣元・派遣先事業所には郵送し、派遣労働者には派遣元事業所を通じて配布した。これとは別に民間調査会社が保有するモニターを利用したインターネット調査も実施。派遣労働者四〇〇〇人の回答をまとめた。以下、派遣労働者を対象にした二つの調査の概要を紹介する。

### 「正社員として働きたい」と「今のままでよい」が拮抗—派遣労働者への調査票調査

派遣労働者を対象とした調査結果（調査票による調査で二〇八八人からの回答を集約、回答率一〇・九％）の回答者属性をみると、性別は男性が五七・六％、女性が三八・七％。年齢は三五～三九歳（二七・五％）がもっとも多く、次いで三〇～三四歳（二六・六％）、四〇～四四歳（二五・六％）、二五～二九歳（二二・八％）、四五～四九歳（一一・三％）となっている。過去二年間の派遣就労による収入は、二〇〇万～三〇〇万円未満（二九・九％）がもっとも多く、次に多いのが一〇〇万～二〇〇万円未満と三〇〇万～四〇〇万円未満（ともに一七・四％）だった。過去二年間の派遣以外による収入は、「なし」が六六・三％を占めている。

### 七割が常用型派遣で就労

現在の就労状況についてみると、派遣会社との雇用形態は有期雇用が五五・九％、無期雇用は三九・三％。派遣形態は常用雇用型が六九・三％、登録型が二四・一％となっている。

現在、派遣会社と結んでいる雇用契約期間は、期間の定めのある者が六三・五％、期間の定めなしが三六・五％だっ

た。期間の定めのある者のなかでは、「三〇日超三カ月以内」が二〇・八％で一番多く、「六カ月超一年以内」（二六・七％）、「三カ月超六カ月以内」（二四・三％）、「一年超三年以内」（八・三％）が続く。

現在の派遣契約における派遣契約期間では、「一年超三年以内」（二一・七％）、「六カ月超一年以内」（二〇・二％）、「三〇日超三カ月以内」（一八・七％）が多い。現在派遣就労している派遣先の業種は、「製造業」（三七・二％）が最多。「情報サービス業」（二一・〇％）、「その他のサービス業」（二一・六％）、「建設業」（八・〇％）などの順。派遣就労している業務は「物の製造」が一九・〇％で高く、「ソフトウェア開発（二号）」の二二・六％、「事務用機器操作（五号）」の一一・三％などが続く。

### 六割が正社員からの転身

派遣就労を始める直前の状況については、「派遣以外の就労」が圧倒的に多く六三・六％、次いで学卒（二一・四％）が続く。派遣就労直前に就いていた職は、正社員が六〇・三％で多く、次にパート・アルバイト（二一・〇％）となっている。直前の職を離職した理由は、「自己都合（六四・四％）」が多く、「倒産廃業（八・六％）」や「契約終了のため（一八・五％）」は一割未満だった。派

遣という働き方を選んだ理由（三つまで選択）は、「正社員の職が見つからなかったため」（二二・七％）がもっとも多く、以下、「仕事内容を選べる」（一八・二％）、「特に理由はない」（一七・八％）、「勤務地・勤務期間・勤務時間を選べる」（二六・八％）、「専門知識を活かせる」（二五・九％）、「私生活との両立が図れる」（一一・〇％）などとなる。

能力やスキルの獲得方法（同）では、「派遣先でのOJT」（四〇・三％）や「派遣就労を始める前の職場での経験」（三二・四％）、「派遣会社でのOff-JT」（二三・一％）が多い。能力やスキルの向上によるキャリアアップについては、「ある」と回答した者が五九・一％、「ない」が四〇・九％。その内容（複数回答）は、「仕事が高度になった幅が広がった」が六三・四％でもっとも多く、次に「仕事の権限が広がったり、責任ある職務に就けた」（二九・五％）や「賃金が上がった」（二五・三％）が二割強だった。

### 一つの仕事・職場で長く働くことを重視

現在の派遣会社に対する不満（三つまで選択）は、「雇用・収入が不安定」（一九・六％）、「派遣先の従業員と比べて賃金が高い」（二七・〇％）が多く、現在の派遣先に感じている不満（同）は、「派遣先の従業員との人間関係が難しい」（二五・一％）、「休暇が取りにくい」（二三・六％）が多い。ただし、「特に不満は感じない」が、前者は三八・八％、後者は五八・一％に達していた。

派遣会社とのトラブル(複数回答)は、「事前に説明された内容と実際の就業条件が違った」(四・四%)、「教育訓練・福利厚生に対する配慮がない」(二・一%)、「派遣契約期間の途中で契約が解除された」(二・二%)など、いずれも5%未満。「特にトラブルの経験はない」が八七・〇%を占めた。

派遣先でのトラブルについて、申立てや相談をしたことの有無を聞くと、「ある」は九・五%で、「ない」が八四・四%だった。苦情やトラブルの内容(三つまで選択)は、「職場での人間関係」(四六・七%)、「業務の内容」(三〇・二%)、「パワハラ、セクハラ」(一八・一%)、「労働時間(残業等)」(一五・一%)、「賃金」(二四・一%)などの順だった。

今後、希望する働き方(三つまで選択)については、「今のままの働き方がよい」(四一・六%)と「正社員として働きたい」(四一・〇%)がともに約四割。他の「派遣会社で無期雇用される派遣労働者として働きたい」(八・六%)や「無期雇用のパート・アルバイト、準社員として働きたい」(六・九%)、「独立・起業したい」(五・六%)、「派遣会社と一年以上の雇用契約を結ぶ派遣労働者として働きたい」(五・一%)、などの選択肢はいずれも一割未満だった。今後働いていくうえで重視できること(同)は、「一つの仕事・職場でできるだけ長く働く」が五五・九%でもっとも多く、次いで「家庭や私生活との両立を大切にすること」(三九・〇%)、「専門的な知識や技能を磨いてキャリアアップをめざす」(三三・七%)などとなっている。

### 六割が正社員として働くことを希望―派遣労働者へのインターネット調査

一方、インターネット調査結果をみると、回答者の性別は男性二六・四%、女性七三・六%と、女性が多数派になる。年齢は、三五〜三九歳(二五・二%)が一番多いのは同じだが、次に多いのは四〇〜四四歳(二二・七%)で、三〇〜三四歳(二七・〇%)、四五〜四九歳(二四・五%)が続く格好になる。過去一年間の派遣就労による収入は、調査票調査同様、二〇〇万〜三〇〇万円未満(三八・一%)がもっとも多く、次に多いのが一〇〇万〜二〇〇万円未満(二五・二%)、三〇〇万〜四〇〇万円未満(二三・五%)だった。過去一年間の派遣以外による収入は、「なし」が六一・三%を占める。

### 四割が登録型派遣で就労

現在の就労状況については、派遣会社との雇用形態は有期雇用が七〇・二%、無期雇用は二五・五%。派遣形態は常用雇用型が五三・四%、登録型が四一・三%で、調査票調査に比べ、登録型で働く人の割合が高い。

有期で働く人の雇用契約期間をみると、「三〇日超三カ月以内」が三二・四%と高く、次いで「三カ月超六カ月以内」(一八・〇%)、「六カ月超一年以内」(一〇・三%)が続く。

現在の派遣契約における派遣契約期間は、「三〇日超三カ月以内」(二〇・七%)、「二年超三年以内」(一六・八%)、「わからない」(二五・五%)、「三カ月超六カ月以内」(二三・八%)が多い。また、現在派遣就業している派遣先の

業種は、製造業(二五・〇%)が多く、以下、その他のサービス業(一四・二%)、情報サービス業(九・三%)、金融・保険業(八・九%)、卸・小売業(八・一%)が続く。派遣就労している業務は「一般事務」が二八・〇%で高く、次いで「事務用機器操作(五号)」の一八・五%、「その他の二六業務」物の製造(ともに一〇・〇%)と続く。

### 多い「賃金・収入」への不満を訴える声

派遣就労を始める直前に就いていた職は、正社員が五七・五%でもっとも多く、次にパート・アルバイト(二五・四%)、契約社員(二四・二%)となっている。直前の職を離職した理由は、「自己都合(七二・六%)」が多く、「倒産・廃業」(九・一%)や「契約終了のため」(七・八%)、は「一割未満だった。派遣という働き方を選んだ理由(三つまで選択)は、「正社員の職が見つからなかったため」(三八・八%)がもっとも多く、以下、「勤務地・勤務期間・勤務時間を選べる」(三三・六%)、「働きたい仕事内容を選べる」(二六・三%)、「私生活との両立が図れる」(一八・六%)、「就職活動が不要」(一七・五%)、「他の非正規雇用と比べて賃金水準が高い」(二六・六%)、「残業や休日出勤が少なくて済む」(二三・三%)、「会社との人間関係に煩わされなくて済む」(二一・一%)などとなる。

現在の派遣会社への不満(三つまで選択)は、「雇用・収入が不安定である」が四二・四%と高く、次いで「技能が向上したり勤務期間が長くなったりしても賃金が上がらない」(二九・〇%)、「担当している仕事のわりに賃金水準

が低い」(二二・八%)。現在の派遣先への不満(同)は、「派遣先の従業員との人間関係が難しい」(二〇・七%)が高く、「特に不満は感じない」は四〇・一%となっている。など。「特に不満は感じない」は一六・〇%だった。

派遣会社とのトラブル(複数回答)をみると、「事前に説明された内容と実際の就業条件が違った」が一七・四%と高く、次いで「教育訓練・福利厚生に対する配慮がない」(七・九%)、「派遣契約期間の途中で契約が解除された」(六・八%)が続いている。「特にトラブルの経験はない」は六九・七%。派遣先でのトラブル相談の有無は、「ある」が二二・二%、「ない」が七七・八%。トラブルの内容(三つまで選択)は、「業務の内容」が四四・九%と高く、次いで「職場での人間関係」(四一・九%)、「賃金」(パワハラ、セクハラ)(ともに二二・一%)、「労働時間(残業等)」(一一・〇%)、「契約の解除・不更新」(一一・五%)などの順になる。

今後、希望する働き方(三つまで選択)については、「正社員として働きたい」(六〇・七%)が突出しており、「今のままの働き方がよい」(一九・三%)は約二割だった。

今後働いていくうえで重視できること(同)は、「一つの仕事・職場でできるだけ長く働く」が六三・九%でもっとも多く、次いで「家庭や私生活との両立を大切にすること」(四五・六%)、「賃金の高い仕事につく」(四〇・〇%)などとなっている。

(調査・解析部)